

<テーマの設定>

昨年度よりすくわくプログラムの「自然」をテーマに観葉植物やメダカ等を取り入れて、自然を身近に感じられる環境設定をしてきました。今年度は木製玩具や木製遊具の設置をして木の香りやぬくもりを感じながら遊べる環境を作りたいと思い自然の中でも「木」に着目をして、テーマを設定しました。

「環境のデザイン」

- ・ズレンガ ・床上積み木 ・かくれんぼパズル ・ビジーボード ・たまごプール ・木製電車
- ・カプラ ・ポーリング ・ポットン落とし

期間中ランチルームにコーナーを作り設置する。



<振り返りと保育士の気付き>

- ・「どうやって遊ぶんだろう？」と触れてみて、音が鳴る、転がる、など新しく発見したことで遊ぶことを楽しんでいる。表情や指さしで保育士に思いを共有しようとする姿もあった。
- ・以前は玩具を玩具として遊ぶ姿が多かったが、玩具を何かに見立ててご見立て遊びをする姿が多くあった。また積み木など自分の中でイメージが作れる玩具は子ども達発信で遊びを深める事ができると感じた。
- ・ポーリングや卵プール等体を動かす遊びとビジーボードやかくれんぼパズル等の座って遊ぶ物のバランスにより室内の印象が変わってくる事に気が付く。普段のクラスの部屋の玩具も種類を変えることによって違った印象になるのではないかと思った。
- ・たまごプールやどんぐりなど乳児の遊びのような玩具も人気で、自分たちで遊びを展開できるものも大切だが、肌触りの良い玩具なども安心できるのかもしれないと思った。
- ・コーナー分けやスペースの配分等は考える必要があるかもしれないが、年齢が上がるにつれて子どもたちがコーナーを考える経験をしてほしいのかもしれない。
- ・ズレンガの使い方に面白さを感じた。1時間以上遊んだがまだまだ遊びたい子が多く、明日への期待をしている姿も可愛らしかった。

<今後に向けて>

木製の玩具で環境を設定して遊ぶ中で自発的に遊びに向かう姿を多く見る事ができた。子どもたちの姿を見て「創る」「イメージ」と見立て遊びやごっこ遊びに夢中になっている事が多く、遊びの中で欠かせない要素と言う事を感じた。日頃の玩具選びや部屋の設定に生かしていきたい。また、木製だからこその木の匂いやぬくもりを感じ木製玩具が持つ魅力に少し触れる事ができた。

「子どもの姿」

【0歳】

・どんぐりコロコロと言うスロープ玩具では坂道からゆっくり転がる場所を不思議そうに見つめ、ゆっくり動くことが分ると坂道を高くしてどうなるか、やってみる姿があった。見たり自分で考えたりして遊んでいた。

【1歳】

・たまごプールをお風呂見立てて「あったかいね。」と言ったりズレンガを家に見立てて「はいいいよ。」と言ったり何かに見立てて遊ぶ姿が多かった。  
・ズレンガを組み立てようとして付けたり外したりを楽しんでいた。

【2歳】

・ズレンガに卵プールの卵を並べるなど、玩具を組み合わせて遊びを広げて楽しんでいた。  
・ズレンガが人気だった。玩具その物で遊ぶと言うよりは自分たちでイメージしたものを『創る』と言う事に夢中になっていた。

【3歳】

・ズレンガがアーチを描きながら積み上げられる様を楽しむ。崩れそうで崩れない感覚を楽しんでいる。また、組み合わせて椅子を作る姿があった。

・卵プールで「いいにおい。」と言いながら顔をうずめている子もいた。

【4歳】

・最初は一般的なピンの立て方でポーリングを楽しむ子ども達、遊び込むにつれピンの位置を離してみたり、ズレンガを障害物として設置したりと遊び方を工夫する姿が見られた。

・たまごプールも最初に入って遊ぶのみであったが、途中からはプールのへりにバランスをとって卵を並べてみたり、床を転がしてみたりと思いついた遊びを次々に実践している。

・ズレンガに関しても普段のように大きな製作物（家等）を作るというよりも、パーツをお皿などに見立ておままごを始めたり、滑り台のようにしたりして遊ぶ子もいた。

【5歳】

・ポーリングでは投げる順番でもめるすがたもあったが、ピンの並べ方などを「三角に並べるんだよ。」と言って経験したことを遊びに取り入れていた。

・ズレンガでは家の中にテーブルや椅子を作ってカプラで料理を作り、見立て遊びを楽しむ姿が見られた。

・かくれんぼのパズルではどこに生き物が隠れていたか分からなくなり、片づけに戸惑っていたがそれも神経衰弱のように楽しむ姿があった。